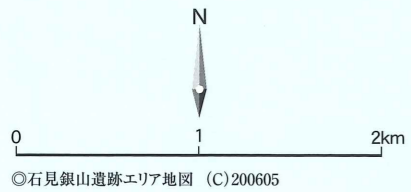
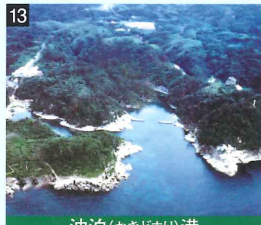


中国自然歩道 石見銀山街道コース 温泉津・沖泊道



◎石見銀山遺跡エリア地図 (C)200605

- 中国自然歩道 温泉津・沖泊道モデルコース(車道区間)
 - 中国自然歩道 温泉津・沖泊道モデルコース(歩道区間)
 - その他の中国自然歩道(車道区間)
 - その他の中国自然歩道(歩道区間)
 - その他のトレッキングコース(車道区間)
 - その他のトレッキングコース(歩道区間)
- 銀山街道関連遺跡
 - 観光案内所
 - トイレ
 - 駐車場
 - 案内看板
 - 指導標



沖泊(おきどまり)港
16世紀後半に銀の積出し等で栄えた天然の良港。櫛島(くしじま)へ続く湾岸部には船をつなぐ「鼻ぐり岩」が多数見られる。



ゆうゆう館
1300年の歴史を有する温泉津温泉の温泉津港側の玄関口にあり、2階が資料館、1階が休憩所となっている。

蛇島



やきもの里
やきもの里には、「ハンド」と呼ばれる大きな水瓶が有名な温泉津焼の巨大な登り窯があり、やきもの創作体験もできる。細い道を下れば温泉津温泉街方面。産業道路を西へ進めば沖泊方面。



松山の道標(車道・歩道分岐点)
「右銀山大森・いづも大社」と刻まれた福光石の道標。



清水(しみず)大師入口(車道・歩道分岐点)
ここから約2km車道を上った高台に清水大師寺があり、180度日本海を望める絶景である。



清水の金柄杓(かなびしゃく)
清水集落の民家の石垣の下から泉がわき出ている。銀山街道を往來する人々はこので温いたのを潤した。名前は代官が金属のひしゃくを奉納したことに由来する。



中村の題目塔(車道・歩道分岐点)
歩道分岐点から約10m東側に中村の題目塔があり、側面には「右ハゆさとみち/左ハゆのつみち」と記されている。



五老(ごろう)橋(歩道分岐点)
降路坂の西の登り口。車道(県道201号線)を下れば西田の集落。車道を約2.5km上り、トンネルの先の登山道入口から約30分登山道を登ると矢滝城山の山頂に着く。



降路坂(ごろうさか)の茶店跡(峠)
降路坂(ごろうさか)は、温泉津沖泊道最大の難所で、峠にはかつてあった茶店の礎石が残る。



坂根口(車道・歩道分岐点)
降路坂の東の登り口。かつて、この付近に番所が設置されていた。



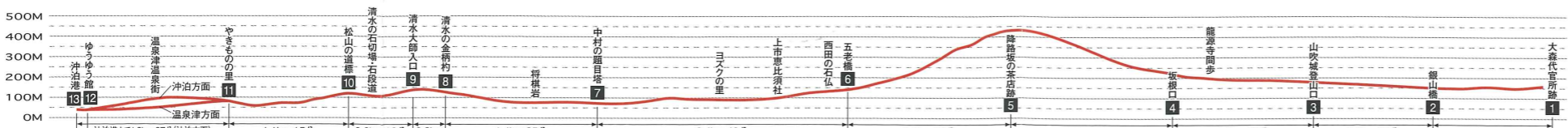
山吹城登山口
銀山街道・柄ヶ浦道の分岐点。山吹城は、標高414mの要香山山頂にある城跡で、戦国時代30年にわたって、小笠原・尼子・毛利氏らが銀山の支配を巡りこの城の争奪戦を繰り返した。



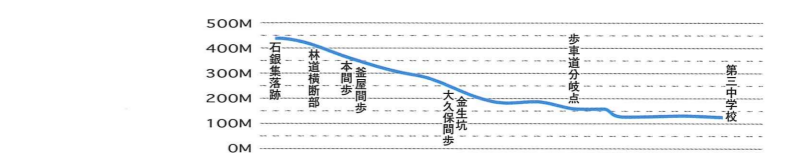
銀山橋(銀山公園入口)
銀山公園には、観光案内所や石見銀山ガイドの会の事務所があり、情報を入手することができる。また、300m先に羅漢(らかん)寺(五百羅漢)がある。



大森代官所跡(石見銀山資料館)
銀の採掘が最盛期だった江戸時代、銀山は天領となり、徳川幕府直轄の代官所が置かれた。当時の門や長屋に残る跡地は現在資料館となっている。



《温泉津・沖泊道》



《本谷～石銀(いしがね)集落コース》

周辺の見所



大森の町並み
武家、町家、社寺が立ち並び、かつての鉱山町の雰囲気を残す大森の町並みは、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。



仙(せん)ノ山
銀鉱石は、最大の大久保開歩をはじめ主にこの山から掘り出された。



矢滝(やたき)城跡
標高634mの山頂は眺望がよく、仙ノ山、山吹城跡、三瓶山、温泉津港までパノラマが広がる。



ヨソク(よそく)の里
ふくろう(ヨソク)の姿に似た独特の形をしているハデ(秋に刈り取った稲を天日干しするもの)は、ヨソクハデと呼ばれる。